

令和 6 年度東京都自立支援協議会  
(第 2 回本会議)

令和 7 年 2 月 1 4 日

東京都心身障害者福祉センター

(午後 1 時 3 0 分 開会)

○外川課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和 6 年度東京都自立支援協議会第 2 回本会議を開会いたします。

私は、本協議会の事務局を務めさせていただきます、東京都心身障害者福祉センター、地域支援課長の外川達也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認をお願いいたします。次第に資料の一覧を掲載してまいります。資料 1 から資料 8 まで、そして参考資料 1、2、3 となります。

本日の協議会ですけれども、グループ討議の時間を除きまして、オンラインでの傍聴を希望された方に公開をしております。また、記録用の写真撮影を行わせていただくとともに速記を手配しております。本協議会の資料及び議事録につきましては、後日、ホームページで公開させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、東京都心身障害者福祉センター所長の富山貴仁よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

○富山所長 皆さん、こんにちは。大好きなアルパカの絵をつけさせていただいております、東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。本日は、ご多忙の中、第 2 回本会議、こちらのほうにご出席いただきまして誠にありがとうございます。

早いものでございまして、令和 6 年度の最後となる都協議会の行事となります。振り返りますと、昨年 6 月の第 1 回本会議、こちらにおいて各グループから交流会セミナー、動向集に対する貴重なご意見をお寄せいただきまして、そうしたご意見を踏まえて、今年度開催いたしました交流会とセミナーでは、後ほど報告もさせていただきますけれども、参加者の方から「大変参考になった」や「参考になった」とのお声を大変多くいただきまして、おおむね好評な内容であったと認識しております。皆様のご尽力に重ねて御礼申し上げます。本日は、そうした本年度の活動報告をさせていただいた後に、委員の皆様、令和 6 年度の活動全体の振り返りや、それを踏まえて次期協議会に期待することなどについて、グループ討議の形で意見交換をしていただきたいと考えてございます。

加えまして、今年度は本協議会第 8 期の締めくくりの年度となります。令和 5 年度から令和 6 年度にかけてのこの第 8 期におきましては、「協議会において合理的配慮による当事者の主体的な参画を推進するとともに、地域課題への取組過程の共有により、地域協議会活動の活性化を図る」、若干長いですが、こうしたテーマを掲げまして活動を進めてまいりました。

限られた時間とはなりますが、第 8 期の締めくくりといたしまして、本協議会として今後も引き続き大切にしていこうと、また、次の第 9 期に向けた新たな視点や、これまで以上に力を入れる必要のあること、こうしたことなど幅広くご意見をいただくようお願いいたします。甚だ簡単ではございますけれども開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○外川課長 ありがとうございます。

続きまして、委員の皆様を、簡単ではございますがご紹介させていただきたいと思っております。各テーブルにマイクがありますので、ぜひご紹介した後に一言、近況なりをいただければというふうに思います。

C I L ちょうふ代表、秋元妙美委員ですが、本日少し遅れて参加ということで、進めさせていただきます。

社会福祉法人多摩棕櫚亭協会、障害者就業・生活支援センター・オープナー施設長、荒木浩委員ですけれども、本日は欠席となります。

武蔵野大学人間科学部人間科学科教授、会長、岩本操でございます。

○岩本会長 岩本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

- 外川課長 大田区障がい者総合サポートセンター、相談支援事業所管理者、神作彩子委員です。
- 神作委員 神作です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 世田谷区北沢総合支所、保健福祉センター、健康づくり課、保健相談係長、北川多恵子委員です。
- 北川委員 北川です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 社会福祉法人原町成年寮、サザンクロスかつしか所長、久保玄委員です。
- 久保委員 久保です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 一般社団法人ソラティオ、精神障がい者相談支援事業所コンパス、小阪和誠委員です。
- 小阪委員 小阪です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 よろしくお願ひします。
- 大田区福祉部調布地域福祉課、身体障害者支援担当、後藤憲治委員です。
- 後藤委員 後藤でございます。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 日本社会事業大学福祉マネジメント研究科教授、曾根直樹委員ですが、本日は欠席となります。
- 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会、豊島区立目白福祉作業所、高橋薫委員です。
- 高橋委員 お願いします。
- 外川課長 よろしくお願ひします。
- 社会福祉法人東京緑新会、地域生活相談室おあしす、仲田素直委員です。
- 仲田委員 仲田です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 東京都障害者政策推進部、地域生活支援課長、中山佳子委員ですが、本日は欠席となります。
- 公益社団法人東京都医師会理事、西田伸一委員ですが、本日は欠席となります。
- 認定特定非営利活動法人多摩草むらの会、パソコンサロン夢像、生活支援員、根間あさ子委員です。
- 根間委員 根間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 外川課長 特定非営利活動法人クローバー、事務局長、藤井亘委員です。
- 藤井委員 藤井です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 外川課長 北区福祉部障害者福祉センター所長、宮崎修一委員ですが、本日は欠席となります。
- 府中市福祉保健部、障害者福祉課長、向山昇剛委員ですが、本日は欠席となります。
- 社会福祉法人原町成年寮、生活介護事業所シャングリラ、村中友江委員です。
- 村中委員 よろしくお願ひします。
- 外川課長 よろしくお願ひします。
- 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会、副理事長、森山瑞江委員ですが、本日は欠席となります。
- 中央区福祉保健部障害福祉課、相談支援係長、龍佑企子委員です。
- 龍委員 龍です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 それでは、秋元委員が到着したようなので、ご紹介させていただきたいと思います。
- C I L ちょうふ代表、秋元妙美委員です。
- 秋元副会長 すみません、遅くなりまして。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 それでは、次に事務局の紹介をさせていただきます。
- 東京都心身障害者福祉センター所長の富山でございます。
- 富山所長 富山です。よろしくお願いいたします。
- 外川課長 続きまして、東京都心身障害者福祉センター地域支援課、課長代理の井領でございます。

○井領課長代理 井領です。今日はよろしくお願いいたします。

○外川課長 改めまして、私は東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の外川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行は岩本会長にお願いいたしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○岩本会長 改めましてこんにちは。岩本でございます。

今日は、お忙しい中、本会議にお集まりいただきありがとうございます。今日は欠席の方が多くて少し寂しい感じもするのですが、ぜひ皆様にいろいろなご意見をいただきたいと思います。長丁場になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

すみません。最初に皆様におわびを申し上げます。年末のセミナー、急遽欠席になりまして大変申し訳ございませんでした。配信動画を拝見させていただきました。また、アンケートの結果なども拝見いたしました。とてもいいセミナーだったと思いました。皆様方、本当にありがとうございます。

今日は、先ほどセンター長からもお話がありましたけれども、今年度の振り返りと同時に、2か年でテーマを設定して活動してきました第8期の振り返りということになっております。この間に新たな取組もしてきましたし、同じセミナー、同じ交流会、同じ会議でも細やかな修正や改善などに取り組んできたと思います。その辺りを振り返っていただきつつ、今後さらに発展させていくために何が必要かについて、ぜひいろいろご意見をいただければと思います。

この会議の座席も最初は口の字で行っていたのが、今のような小グループの形がいいというご意見をいただいて変えてみたりしました。あと、皆さんに振り分けられたキャラクターがあって、今日の私のキャラクターはペンギンです。私は以前から自分を動物で例えるとペンギンと言っていて、その理由はまた後で時間があったらお話ししたいと思いますが、こういった何となくみんなが肩の力を抜いて話しやすい雰囲気づくりに取り組んできたということもありますので、改めて皆さん、今日も肩の力を抜いて、いろいろ思うところを挙げていただければというふうに思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事を進めさせていただきます。本日は報告事項が四つ、東京都からの報告が二つ、そして協議事項が一つ予定されております。本日の会議は16時30分終了予定になります。よろしくお願いいたします。

はじめに、報告事項について事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○外川課長 それでは、お手元の資料2をご覧ください。

令和6年度地域自立支援協議会交流会の開催報告でございます。

今年度は、都協議会の活動方針でもある「障害当事者からみた地域移行・地域生活支援の課題を共有する」をテーマといたしまして開催いたしました。区市町村の地域協議会から専門部会の委員まで幅広くお声かけをさせていただきまして、コロナ以降、最も多い16区14市から104名の参加がございました。ほぼ全フロアを使つての実施となりました。交流会では、初めに東京都自立支援協議会からの情報発信、続きまして参加者を14のグループに分けてグループ討議、そして最後にグループごとの発表を行う全体会という流れで進めてまいりました。

情報発信では、都協議会で活躍する障害当事者委員が発題を行いました。高橋委員の発表では、事前取材をさせていただいたり、動画を少し撮影させていただきながらそれを当日ご覧いただいたりということで、リハーサルをしたり支援者や家族との打合せなどをしたり事務局としても準備を重ねまして、何より高橋委員ご本人が入念に準備をしてくださったこともありまして大変好評でした。

また、グループ討議では、障害当事者のみのグループを三つ、そして当事者家族のグループを一つ構成するなど、協議会への当事者参画を進めるための工夫も凝らしました。

事後のアンケートでは、「東京都にも自立支援協議会があり、そして、こういう企画が毎年されているということを初めて知りました」であるとか、「グループを「当事者」「家族」「委員・事務局」というふうに分けたことがよかったのではないか」というようなご意見がありました。

続きまして、資料3をご覧ください。

東京都自立支援協議会セミナーの開催報告でございます。

セミナーは今年度も東京都庁第一本庁舎5階の大会議場で開催いたしました。当日は、障害当事者・家族、相談支援事業所、障害福祉サービス等の事業所、そして民生・児童委員の皆様、地域自立支援協議会委員など関係者、そして区市町村の職員の方々、様々な分野から154名の方が参加されました。また、セミナー終了後にはオンデマンドによる動画配信を行いました。310名を超えるお申込みがございました。セミナー当日、会場入り口には村中委員がお描きになりました、本セミナーのチラシにも実は使わせていただいたのですけれども、その原画を展示させていただいております。また、開会前のBGMには高橋委員のマリンバの演奏を使わせていただきました。ご協力、ありがとうございます。

基調講演では、社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会、杉並障害者自立生活支援センターすだち相談員の佐藤弘美様から、相談支援の現場における地域移行に当たってのライフステージごとの課題ということ、具体的に事例を挙げていただきながらお話を聞かせていただくことができました。

パネルディスカッションでは、地域で生活している障害当事者お二人のお話、そしてその支援者のお話をパネリストとしてお迎えしながらいただくことができました。信頼の置ける支援者との出会いというものが、地域で自分らしく暮らすためには趣味を持つことが大事であるとか、ご自身の体験に基づいた楽しい逸話であるとか、施設入所から地域での暮らしが落ち着くまでのいろんな困難であるとか、そこを乗り越えたときの現在の自分の姿、生活であるとか、動画も交えましてご紹介をしていただきました。

基調講演者を交えてのパネルディスカッションを行いまして、最後は東京都自立支援協議会のメッセージということで発信してございます。

参加者からのアンケートでは、「事例を基にした話で、大変わかりやすく、また、課題についても認識が深まった」とのご意見等々をいただきました。事後のアンケートでは「第8期の東京都自立支援協議会の取組についていかがですか」ということを問う設問を設けましたが、9割を超える皆様からよい取組であるというような結果を得ることができました。

続きまして、資料4をご覧ください。

今年度、委員の皆様にもご協力をしていただきながら進めてまいりました自立支援協議会担当者連絡会の開催報告になります。

今年も引き続き年2回、いずれもウェブ会議システムを活用して開催いたしました。本連絡会は、地域の自立支援協議会間のつながりをつくり、そして先進的な取組を共有する、その中で協議会活動を活性化していこう、という目的で開催しているものでございます。

第1回目は、区市町村の皆様にご協力いただいた令和5年度の東京都内の自立支援協議会の動向、いわゆる「動向集」の報告の中から都協議会委員の皆様を選んでいただきました、各自治体の先進事例の報告を行いました。一番直近に協議会を立ち上げました三宅村の皆様からも現在の活動状況を報告していただいたり、板橋区から高次脳機能障害部会の取組について、そして品川区からは「施設入所者への地域移行調査の取組」、西東京市からは「緊急時の受入対応」、文京区からは「障害当事者部会の活動等について」ということでそれぞれ取組を発表していただきました。第1回目は12区14市2町1村から63名の参加がございました。

第2回目は東京都福祉局障害施策推進部の施設サービス支援課から障害者支援施設における地域移行支援についての報告をさせていただきましたほか、第1回に引き続きまして動向集か

ら都協議会委員の皆様にご選定していただいた先進的な取組について、江東区さんから「経験の浅い若手支援者の孤立化を防止するための取組」、そして東村山市さんから「就職相談会の開催による障害福祉人材の確保と障害福祉の魅力発信」ということで発表していただきました。さらに、今年度の地域自立支援協議会交流会の報告等、そこで話し合ったことをその後地域に持ち帰ってどのように活用したかということについての意見交換をさせていただきました。この日は15区14市から48名の参加がございました。意見交換の場では、11の自治体から協議会の活動状況等について近況報告もありました。アンケートでは、「すぐに活かせるような情報共有ができて非常に助かっている、貴重な機会である」等の意見がありました。

続きまして、資料5でございます。

令和6年度版の東京都内の自立支援協議会の動向、いわゆる「動向集」についてでございます。

編集方針を継続して行っている調査につきましては、同様のかたちで引き続き行っていくこと。グループ討議の中で、今年度の活動方針に沿った設問を設けていくこと。当事者参画と協議会活性化という設問について、よりブラッシュアップを進めること。年間活動からピックアップしたコラムを掲載することを方針といたしました。

グループ討議で出された意見やそれを踏まえた方向性など、詳細につきましては参考資料1としてお付けしてございますので後ほどご覧ください。また、調査票につきましては、おかげさまで回答に要する時間を十分確保するというのもございますので、2月7日の日に各区市町村のほうに配布を済ませてございます。ご協力ありがとうございました。

次に、報告ということで東京都からの報告をさせていただきたいと思っております。資料6になります。

今年度初めて開催された「全国ブロック会議」関東ブロックの報告ということになります。初め、厚生労働省のほうから、基幹相談支援センター、そして地域生活支援拠点等、そしてここに自立支援協議会という言葉が出てきまして、その三つの要素の役割というのを明確に示すことができた今年度であって、特に都道府県協議会には広域的見地から、区市町村を支援するという役割を明確にさせていただいたというお話がございました。都道府県には基幹相談支援センターの整備を促進するためのアドバイザーを設置するということや、地域には拠点コーディネーターという者が果たす役割というのが今後重要になってくるだろうというようなお話、そして最後に、やはり人口が少ない自治体ほど、助言であるとかバックアップなどを必要としているということの説明がございました。

また、協議会の活動が活発であるというところの例といたしまして、官民、そして当事者などが参画している協議会というのは、活発な活動が行われているというようなところをご紹介していただきまして、また、組織運営体制についても柔軟に見直しをしているところほど協議会活動が活発に進められているということがありました。

関東ブロックにおける報告のポイントとしては、東京都以外の関東ブロックの自治体では、市町村の協議会というのは実は100%設置されていたことが分かりました。

一方、私どもが取り組んでいる動向集のようなかたちで、市町村の協議会がどのような全体像で活動しているかというような詳細を把握しているのは東京都だけでございました。当日、複数の自治体から、県のほうから、東京都の取り組みを参考として今後このような取り組みをしてみたいというようなお話もございました。

最後に、厚生労働省のほうから、このブロック会議はこれで終わりということではなくて、ここからスタートですと、ここで得た成果を都道府県の協議会に持ち帰っていただいて、来年、どういう成果が上がったかということをもた報告していただきたいというような、うちが取り組んでいることと同じようなことを言われ、そうか、言われる身になるとそういうことなのだなということは身に沁みて帰ってきました。なので、ここで報告をさせていただきました。

続きまして、資料7でございますが、令和6年度の東京都障害者総合支援法等関連研修に関する検討報告でございます。

初めに、相談支援従事者研修検討会ですけれども、区市町村及び拠点機関での実習対応というところについて地域の実情に合わせたバックアップをする。そして、研修の補助教材の必要性について引き続き検討する。そして最後に、私たちが目指す相談支援専門員の姿というものを更新していくということを年間の方針として進めてきてございます。

そのため、検討委員が各研修等検討会を連動して進められるような検討体制を構築したり、あるいは、演習指導者の養成研修につきましても2コース制に少し変更してみたり、研修の一部を動画配信して繰り返し学べるようにしたりというような工夫をさせていただきました。地域の実習の対応がスムーズになるよう、専門コース別研修としてスーパービジョンの研修を少し導入させていただいております。加えて、昨年度にも行ったのですが、区市町村を対象とした現任研修及び初任者研修の実習の対応ということの説明会を行わせていただきまして、後日、限定配信もさせていただいております。

続きまして、サービス管理責任者等研修検討会の活動ですけれども、「東京都のサービス提供事業所において障害児・者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿」、今Ver. 5なのですけれども、それに基づきまして研修内容を検討し、基礎研修、実践研修、更新研修で使用する教材をブラッシュアップしていくこと、そして、研修全体を見渡しながらかつながりを意識した研修プログラムをつくっていくこと。そして、基礎・実践・更新の各研修ファシリテーターの説明会の内容を検討していくこと。

そして令和6年度から更新研修に新たに追加されましたスーパービジョンのプログラムをつくり、また実施すること。質の高い研修を引き続き行っていくため、次期講師の育成と講師間の関係づくりというものを目的とした演習指導者の養成研修を実施することを年間の活動方針として取組を進めてきております。今年度は、基礎・実践、そして更新研修について教材の見直しも行わせていただいてブラッシュアップをしてございます。特に更新研修につきましては、今年度からスーパービジョンの部分も含めた本則での実施ということがございましたので、スーパービジョンについての説明会を個別に少し実施させていただいております。

また、今年度、関係団体等から演習指導者の候補者を丁寧に推薦を募りまして、演習指導者養成研修を実施してございます。基礎・実践・更新研修の各演習の円滑な運営に当たっては、検討会委員の皆様は教室進行を担っていただきながら、特に基礎研修では教室進行に演習指導者養成研修の受講者のフォロー役も担っていただきながら進めてまいりました。

長くなりましたけれども、事務局からの説明は以上になります。ありがとうございます。

○岩本会長 事務局からのご説明、ありがとうございました。

今年度の本協議会の活動報告と東京都からの報告でした。今年度の協議会の活動を振り返ることになったかと思います。お席に写真なども置いていただいているので、それも見ながら思い出していただけるといいと思います。

まず、1回目の協議会の担当者連絡会、ここでは根間委員からのご推薦を受けて西東京市の取組について発表をしていただきました。根間委員より一言お願いできますか。

○根間委員 すみません。ちょっと分からなかったのですけれども。

○岩本会長 オンラインの担当者連絡会のときに西東京の取組について根間委員から選出していただいたと伺っておりましたので、その点について一言ご発言いただきたいのですが、すみません、少し前の話で申し訳ないです。

○根間委員 推薦させていただいたのは、実は私、かねがね精神の疾患を持った人は特にそののですけど、やっぱり体調に波があって体調が崩れやすいことがあるのですけれども、それを支えるものとして病院しかないというのは残念だなと常々思っておりまして、クライシスのときを病院みたいな大ごとにしなくて、ちょっと頼れる先があって、1泊2泊してそこで安心し

て休める、そういうような場所がもう本当に各地にあって、身近にあって駆け込んで、ちょっと今日一晩休ませて、みたいなことができたなら多分すごく楽になって、生活が整うのではないかなと思っておりまして、やっぱり入院となると体の病気の入院だって準備とかが大変だと思うのですが、大ごとにしないでちょっとしたピンチのときにちょっと頼れる先ということで、いろんなところでそういうのができたらいいなと思って。

実はもう民間でそういうことを実践なさっている方があちこちにいるのも存じ上げていて、私もそういうところにお邪魔して、古い昭和のお家でゆっくりのんびり過ごせるような場所をつくって、温かいご飯を提供して、安心して休めるベッドを用意してくださっているような、そういうところも存じ上げているので、そういうところが広がると多分本当に助かるのだろかなと、私自身の実感からもそういうところを頼れたらありがたいなと思って推薦させていただいたわけでございます。ありがとうございます。

○岩本会長 根間委員、ありがとうございます。

1回目の担当者連絡会では西東京市が緊急時の受入対応の機能としての居室の確保についてご発表いただいたので、今、根間委員がおっしゃってくださったようなことが広がるといいという取組報告だったと思います。多くの自治体の担当者の方がお集まりになったので、広がっていくといいなと思いました。ありがとうございます。

また、セミナーですけれども、セミナーでは仲田委員から矢島さんをご推薦いただきました。仲田委員からも、セミナーを振り返って一言お願いできますか。

○仲田委員 仲田です。

私のほうは入所施設で行ってきた取組を最初にお話をさせていただいたのですが、やっぱり時間が足りなくて、とても早口でまくしたててしゃべってしまったのですが、でも本人はすごく満足して帰られたので、聞いていた私の知人たちもとてもいい発表だったという形だったので、よかったなというふうに個人的には思っています。

○岩本会長 ありがとうございます。

地域移行や地域生活支援となるとその地域における支援状況はよく聞くのですが、施設の中から支援をつなげていくという、支援のバトンの渡し方という点で、非常に聞いているほうも分かりやすかったと思っています。ありがとうございます。

動向集、セミナー、交流会を通して、協議会の委員の皆様からいろんなアイデア、ご提案をいただいて進めてまいりました。小阪委員からは、交流会で障害当事者だけのグループをつくってはどうかとご提案いただき、今年度の交流会ではそういう試みを行ったわけですが、小阪委員、実際に行ってみての感想なりご意見などをいただけたらと思います。お願いします。

○小阪委員 ありがとうございます。

交流会自体はぜひ今後も当事者グループというのを続けてほしいなというふうにも実際やってみて思ったところです。というのも、当事者は地域で暮らしているとどうしてもマイノリティーだと思うのですよね。いろんな会議体に出てもやっぱりマイノリティーであることが多いような気がしているのです。そんな中で障害領域は違っても、同じ障害という生きづらさを抱えた当事者同士が集まると、自然と共感の輪が広がるというか、何か不思議な力が働くということは常々思っておりまして、ぜひそういった力も協議会の活性化に今後も活かしてほしいなと思いますので、繰り返しになりますが、交流会でもぜひそういう形式を続けていただきたいなというふうに思っています。

○岩本会長 ありがとうございます。

私もすごくよかったなと思います。障害当事者のグループでもいろんな形の参画というのもあって、ただ、そうやって集まっていることで非常に当事者の存在感というものが伝わってきました。それ自体が強いメッセージになっているという感じがして、とても印象に残っております。

実は最初、小阪委員から当事者のグループというご提案をいただいたときに少し不安もありました。もう10年以上前なのですけれども、私も地域の協議会で初めて当事者部会をつくろうとしたときに、ある当事者の方から当事者だけ集めることに対して少し批判的なご意見をいただいたことがありました。そのことが私の頭の中でひっかかっていたのですけれども、でも実際に当事者が集まって、一緒にいろいろ工夫しながら意見交換をしていく姿は、見る者にとっては本当に大きな力になったと思いました。ぜひ今後もこのような形で進んでいくといいと思いましたし、今回のように当事者が集まることによってもたらされるパワーがいろんなところに展開していくといいと思いました。ありがとうございました。

そうしましたら、秋元副会長からも、1年を通してご意見、ご感想をいただければと思いますので、お願いいたします。

- 秋元副会長 本当に今年度は新たな取組がかなり多かったなというふうに感じています。先ほど小阪委員からもあったように、当事者だけのグループというのが交流会で実現して、本当にやってみて温かい雰囲気だったりとか、その議論の内容だったりというのができてきたなというふうに思ったのと、本会議でもこのような形で、最初、多分昨年度とかはグループごとに分かれてというような形だったかと思うのですけど、最初からこのような形で、リラックスした形でできる雰囲気をつくり出すというのはすごく大切だなと思います。いろんなことを議論していく上で、やっぱり当事者がリラックスしていろんな話をできる場という雰囲気を出していくというのが、本当に大事なのだなというのを私自身が感じました。なので、これを継続するとともに、もっともっといろんな人たちが会議に、会議というところすごく構える人がいると思うので、自分の意見を、自分の思いを言えますというのを言える存在として、この協議会が成り立っていけるといいなというふうに思いました。

以上です。

- 岩本会長 ありがとうございます。

8期の協議会のテーマにある「協議会において合理的配慮による当事者の主体的な参画を推進するとともに」ですが、このフレーズはすごく悩みながら、考えながら、十分にその意図が込められているかどうかを検討したうえでこのテーマになったわけです。まさに当事者自らが発言したいと思え、参加しやすいと思えるような環境づくりや周りの人の配慮などがあっての主体的参画という主旨だと思います。今期の幾つかの取組はこの大きなテーマを目指してやってきたというふうに思いました。ありがとうございます。

今までの報告を受けて委員の皆様からご発言をいただければと思いますけれども、何かございますでしょうか。

(なし)

- 岩本会長 そうしましたら、この後グループ討議がありますので、こういう場よりもグループのほうが話しやすいと思いますので、そちらでいろんなご意見をいただければと思います。

それでは、協議事項に移りたいと思います。グループ討議の進め方について事務局からご説明をお願いします。

- 外川課長 それでは、資料8をご覧ください。

これからグループ討議を進めていただきます。自由闊達なご意見をぜひお願いしたいと思います。各グループでは既にリーダーの方をお願いしてございますので、その方の進行によりまして二つのテーマを進めていただきたいと思います。

一つ目は、今年度の活動を振り返っていただくということです。そして、少しここで休憩を入れてもいいのですけれども、適時休憩を取りながら、二つ目は次期の都の協議会に期待すること、ということの意見交換をぜひお願いしたいなと思っています。

今回から、グループ討議が終わって全体会に進む前に各リーダーの方と会長のほうで討議結果を共有する機会を設けさせていただきたいなと思っていまして、各リーダーの方、討議結果

を受けて全体会で発表するようなポイントというものを少し整理していただいて会長に伝えていただき、会長からは全体会でどのような発信を整理して行っていくかというようなところを、一緒に知恵を絞ってやっていただいた上で全体会に入る、というような進捗で進めさせていただきたいというふうに思っております。

なお、これから進めるグループ討議につきましては、非公開ということでさせていただきます。その後、１５時４５分から全体会を再開いたしますので、本日、傍聴の皆様は少しお待ちいたしますが、１５時４５分になりましたら再度ご入室をお願いしたいと思います。

令和６年度の協議会活動を振り返ってみますと、今年度も交流会、セミナー、動向集というようなツールを使っていたながらの活動を進めてきております。協議会担当者連絡会では委員の皆様に出選していただいた地域協議会の発表の機会も設けさせていただいたり、また、交流会、セミナーの発表者は第１回の本会議でご意見をいただきまして、選出していただいた方に早めに声をかけながら動く体制も取れましたし、一貫した流れをつくることができたかなというふうに思っています。

また、グループ討議の中でも、先ほど小阪委員からもありましたように、当事者だけのグループというのでも編成させていただきながら、会場のＢＧＭであるとか、チラシであるとかということにも当協議会の当事者委員の皆様にもご協力していただきながらということで進めることができました。

７年度からは第９期の都の自立支援協議会がスタートすることになりまして、今期は「障害当事者の参画推進グループ」、そして「協議会活性化グループ」という二つのグループを編成して活動を進めてきました。そして、様々な工夫をしながら、地域の課題としては「地域移行・地域生活支援」というような具体的な地域課題に焦点を当てた活動ということも進めてございます。そうしたことを参考にしながら、ぜひ次期に向けた期待することなどについてもご意見をいただければありがたく存じます。

また、適時休憩を取りながら進めていただければというふうに思います。皆さんのところ、本日、動物のキャラクターで一応グループをつくってございますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

私からは以上です。

○岩本会長　ありがとうございます。

これからグループ討議に入りますが、何かご質問はございませんでしょうか。

終了時間があるのでその前に何分後ですというご案内をしようと思いますので、それまで各グループで自由に意見交換をしていただければと思います。

それでは、リーダーの方、よろしくお願いいたします。

○外川課長　よろしくお願いいたします。

（グループ討議）

○岩本会長　５分ほど打合せが長引いてしまいましたけれども、皆様、お戻りでしょうか。これから全体会を再開したいと思います。三つのグループ討議を進めていただき、いろんなご意見が出たようですので、各グループのリーダーの方からグループ討議のご報告をお願いしたいと思います。

まず、ペンギンチームの秋元さんから、ご報告をお願いします。

○秋元副会長　ペンギンチーム、まず高橋さんのお話を聞いたのですが、今年度はすごい最初から最後まで大活躍だったねというお話から、やっぱりこういう最初からグループの形がいいということだとか、あとはやっぱり今回、動物の絵が描いてありますけど、こういう絵があると和むよねというようなお話がありました。さっきマリンバを流してくれましたけど、こういう会議でもそういうＢＧＭがあったらいいよねというようなことを話しました。

グループが当事者参画推進と協議会活性化グループと分かれていたのですけれど、それぞれ

多分同じような内容のことを議題として議論していた感じなので役割が見えづらかったなというようなことがあります。なので、そのグループ分けの部分をどうやって、やっていくか、今後、確認していくかというのが必要で、やっぱりあとは当事者同士で話す大切さというのを今回交流会を通して感じたところであるので、それも協議会でやっていきたいのですが、どうしてもZoomとかだと厳しいので、それこそ年間スケジュールでこの日とこの日は対面で話す時間とかというのを設けてもらいたいかなというふうな意見がありまして、今回もこの場で話す中で、高橋さんがグループホームのこととか、ほかの活動のこととかを話してくれてすごく生活感が分かってきたというところがありまして、それで、ここにも出ているのですが、地域で当事者が暮らすことの大事さというのがお互いに分かっていくことというのがあると思うので、そこを協議会の中でちゃんと確認していけたらいいかなというところがあります。

あとは、ここの足りないこととしてデータが不足している部分があるのではないかとこのところ、各自治体での地域移行の数とかというのがなかなか出ていないので、そこもあったらいいよねというような話がありました。

あと、ぜひ協議会で楽しいこともやってもいいというふうなことがありました、会議だけではなくて楽しめる場というのもつくれたらいいなというふうな意見がありました。

あとは、最後に協議会の設置要綱の協議事項の中で、(1)の区市町村の地域相談支援体制の状況把握・評価及び整備方策の助言に関することと、(5)都全域における社会資源の開発・改善に関することというのがこの協議会の中ではあまりできていないよねということが上がっていたので、何かしらに絡めて今後できたらいいのではないかとこのような意見がありました。

以上になります。

(拍手)

○岩本会長 ありがとうございます。いろいろなご意見が挙げられたと思います。

では、続いてウサギチーム、リーダーの根間さん、ご報告をお願いします。

○根間委員 ウサギチームも随分いろんなお話をしまして、全部お話しすると切りがなくなってしまうのですが、本当に後でぜひこのボードをご覧いただきたいかなとも思うのですが。

お話を3点に絞りまして、まず最初にこれ(事務局注：イエローカード)の使い方についてタイミングがなかなか難しいというお話が出ました。せっかく作っていただいたのですが、話のどこでこれをあげたらいいのかしらと、やっぱり戸惑いがおありになったというご意見がありました。これも皆さんで検討していただけるといいのかなと思います。

あと、この「ゆっくり」とか「分かりません」とかという、これも(事務局注：イエローカードのうちわ版)とても素敵なのがあるなと思って、私も実は今日これを使いたかったかなと、最初のときに会長から声をかけられて何だったかしら？みたいになっちゃったので、そういうときにこうできる(事務局注：イエローカードをあげる。)といいのかなと思ったので、これは別に当事者委員に限らず皆さんの手元にあってもいいものかなというふうな感じもしました。こういうものがあることによって、多分、会議はすごくリラックスして参加できるし、私も最初の口の字型の会議のときに、超緊張して何にも言いたいことが言えなかった記憶があるので、こうやって今リラックスして発表の場でもそんなに上がらずにいられるのは、こういういろんなチーム名だったり、会議のグループの島をつくってとか、そういうことが本当に大きいので、これは本当にありがたい会議になってきたかなと思います。

いろんなお話をすることで地域移行に関して、今、村中委員はグループホーム生活をととても楽しんでいらっしゃるのですが、久保委員としてはもうそろそろ自立生活ができるのではないの？みたいな、お声がけをしたいらしかったのですね。そういう話を聞いた中で、私として、自分の過去の体験で、私は引きこもりを10年ぐらい経験しているのですが、その中で、すごく苦しい苦しい引きこもりもありましたが、とても楽しく引きこもっていた時期が実はあり

まして、それは自分が周りから受け入れられてサポートされながらの引きこもりだったので、それはそれで私としては、そこで脇から「もうそろそろ、ちゃんと自立したほうがいいのではないですか？」と言われるのは少しばかり余計なお世話だと、お二人の話を聞いていて感じたので、多分、自分のタイミングが絶対あるので、もう今の、このグループホームでの生活が飽き飽きしてくるときがひょっとしたら来るかもしれませんし、これは本当にご本人のタイミングなので、まず、ご本人の意思を大事にしてほしいみたいなお話をさせていただきました。これも地域移行の中でとても大事な点だと思うので、私も病院訪問なんかをして、無理やりお勧めするのではなくて、その方のお気持ちが動くためのお話ができればいいなと、いつも心がけているところでもあります。

あと、いろんなお話をして本当に全部紹介したいのですけれども、村中委員がいろんなお話、初めて久保委員が聞いたというようなお話もしてくださって、私もいろいろ感銘を受けたのですけど、最後のほうで「自由にもっとお話ししたいな」、ということをおっしゃられたのがすごい印象的。こういう委員会というのは本当に大事なテーマについてみんなでお話しする場ではあると思うのですけど、自由討議だったり本当に雑談の中からもいろんなアイデアが出るものなので、こういう委員会の中でも時間を限ってフリートークの時間、楽しいお話をできる時間があってもいいのかなというのがとても印象的で、私もそれは大賛成だわと思ったのでご紹介させていただきました。

本当にいろんなお話ができて、例えばゆずのコンサートに行けて地域生活の醍醐味というのを感じられたというのは『そうだよね！』と、私も本当に思いましたので、そういうちょっとしたお買物に自由に行けたりとか、本当に些細だなと思うようなことでも、閉じ込められていた者にとってはとても大事なところなので、ぜひお伝えしたいので、皆さん、これを読んでくださいね。どうもありがとうございます。

(拍手)

○岩本会長 根間さん、ありがとうございます。

三つ目のグループはイヌとネコが合体したチームということですが、リーダーの神作さん、ご報告をお願いします。

○神作委員 都合によりイヌネコチームが合体ということになりましたので、合体した5人でお話をさせていただきました。

まず、ここで話をしたのは、6年度、今期の振り返りということで、交流会の話とセミナーがどうだったかという話を振り返りました。

まず、交流会については、グループワークをやる前に出てきた意見もたくさんありましたけれども、とにかくグループを当事者の方のグループ、ご家族のグループ、支援者のグループと今回分けたのですが、そのグループ討議がやっぱりとてもよかったのではないかとということ。今年のグループ討議の中で当事者の方が、その中でエンパワーメントされた部分もあったのではないかとということ。あと最後に、全体の前で発表しましたが、その発表したときに生き生きと皆さんが発表されているのを見て、100人超えの人数の中で発表されているのとかを見ると、当事者の方がそういうところに、交流会という名の下に参画をしていただいてエンパワーメントされていく姿を見ると、やはりこれは交流会という名の下にぜひ続けていただければということ。あと、その中で当事者の方がとにかく参加しやすくなったり、もう少し参加者が増えてくれたりするのといいなというのが私たちの意見としてはありました。

ただ一方で、ご家族のグループのところで少しあったご意見だったり、ほかも含めてなので、声を上げられない当事者の方たちもやっぱりいらっしゃると思いますので、それも大切にしていかなければならないのではないかと、声を上げている方たちがおっしゃっていることはもちろん大切ではあるけれども、上げられない方の代弁者として、もしかしたらご家族の方もいらっしゃったりするのかもしれないので、声を上げられない方の声をどのように拾

っていくかということも大切だというようなお話が出ています。

あともう一つ、セミナーのほうについては、登壇された方たちを含めて、地域移行という言葉の下に、ある意味成功をしている方のご意見を聞けるというのは、やはりとても元気になりますし、成功体験を聞けるというのはとてもいいものであるという意見がある一方で、9期に向けてということでもあるのですけれども、成功していることだけではない、もう少し幅の広い事例だったりですとか、その事例、ケースのところからもう少し課題というものが出てくるのではないかと、また、その課題に向き合ったほうがいいのではないかとという意味では、例えばですけれども、地域移行した後に暮らしている方たちの暮らしの中で、もちろんうまくいっている方もいれば、何か問題を抱えてしまっている方もいらっしゃる、そういうケースもあると思いますし、あと、例としては、例えばですけれども地域移行した後というのはそこで人生の最期を迎える方も当然いらっしゃる、そのときにそれでよかったのだろうかというようなお話なんかも私たちの中で出ましたので、もう少し幅広い視点で、もう少し言うと、うまくいっていない内容なんかもやっぱりこういうところを出し合っていくのが、課題にちゃんと着目していくということなのではないかというセミナーについてのお話もありました。

この中で来期に向けてこんなことができたらいいいのではないかとこの話の中では、地域移行という言葉ではありましたが、地域移行から少し一歩先を見て地域で暮らすということに、もう少し課題がないか、課題があるのであればどうしていったらいいのかということに着目できるというのではないかとこのこと。

あと、先ほど全国のブロック会議の報告のところでありましたが、行政の説明のポイントとしては基幹、地域生活支援拠点、自立支援協議会というものがあつたということなのですが、この辺りも当然協議会として着目をしていい部分なのではないかということでは、その中の一つとして基幹相談支援センターというものが今、各区市町村にたくさん立ち上がっておりますけれども、その成り立ちですとか、直営なのか、あるいは委託をしているのかという成り立ち、あと何人ぐらいでやっているのかとかどんな機能をやっているのかというのが、今、東京都の中で大変幅広くなっているところがありますので、基幹センターというものに少し着目をした、協議会で取り組んだ活動、先ほど秋元さんのグループでもデータ不足というようなお話があつたかと思うのですが、そういったところにももう少し相談支援、中でも基幹相談支援センターというものに、着目をしていくような活動ができるというのではないかとこのことがありました。

あと、最後になりますが、秋元さんのグループでも出ていたのですけれども、グループで討論する時間を設けましたが、少し内容が似通っているようなところがあつたかもしれないので、あえて少ない人数で話すためのグループとしてやる必要があるのか、それとも課題に向き合うグループ化をしていくのかによって変わってくると思いますので、その辺りも来年、少ししっかり明確にして取り組めたらいいのではないかとこの話になりました。

5分超えていませんか。すみません、大丈夫でしたか。以上になります。

(拍手)

○岩本会長 神作さん、ありがとうございました。

リーダーの皆様、いろいろなお話があつた中、ポイントを絞ってご報告をいただきました。皆さまから付け加えたい・補足したいということがありましたらせっかくの機会なのでご発言いただきたいと思いますのですけれども、大丈夫ですか。

全体会ということで、私の方から三つのグループのまとめを行うことになっているのですが、なかなか難しいなと思っているのですけれども。今期、令和6年度の協議会では、当事者の参画を一つの柱に置いて、当事者が参加しやすい・発言しやすい協議会のあり方、また当事者の方の存在感というのですかね、その点を中心に考えてきたわけですが、それに関して幾つか皆様からご意見をいただいたところだと思います。

まず、本当に会議の形式ですよ、改めてなぜ口の字にしなきゃいけなかったのだろうというところですよ。会議はそういう形という私たちの中で保守的な思考があったのだと思います。なぜ口の字にしなきゃいけないのか？という疑問を持つ、問いを持つことがすごく大事だと思いました。私も従来の会議の形式に適應していたので、そういう形式だとやりにくい、話しにくいと言っていたことでグループに分けた配置にしてみても、それだけでもすごく意見が言いやすかった・発言しやすかったということが分かったと思います。ペンギンチームから、この形をぜひ各地域の協議会に定着させてほしいとのご意見がありました。地域の協議会ではまだ口の字でやっているところが多いと思うので、東京都の協議会でやってみたらこういう効果があったということを配信して広めていくといいのではないかなと思いました。

また、交流会では、当事者で構成されたグループを設定してみました。先ほど神作さんにおっしゃっていただきましたけれども、やはり当事者同士の交流の意味の深さということもあって、そこで話し合われていく、エンパワーメントをされていく様子は、一緒にあの場を経験した人たちは確かに感じたところかと思っています。当事者同士であるために話しやすかったりとか、そこで交流が生まれたり、お互い刺激をもらったりして、自分も参加してみようという気持ちになっていくということをお聞きし、ぜひこれからも当事者によるグループ討議の形を続けてほしいというお話だったと思います。

当事者の参画においては、非常に具体的な話しとしてイエローカードの使い方についてのご意見がありました。カードはあっても出しにくいと意味がないので、どうしたら出しやすいかということについて一緒に考えていくことも次回に向けての課題かと思っています。

根間さんがおっしゃってくださいましたけれども、誰もが安心して会議に出られる工夫という点では、イエローカードも当事者の方だけのものではなく、共通したツールになるといいなと思ったりします。私も実際、よく聞き取れなかったというときがやっぱりあるので、そういうカードなどのツールを使うことによって『もう一回お願いします』といったことを出しやすい雰囲気になり立つといいなと思いました。こうした工夫もぜひ次期への検討として続けていきたいと思いました。

第8期、令和6年度において、東京都の協議会では当事者の参画の促進に向けていろいろ工夫がされたと思いますので、それを継承し、より発展させ、また各地域の協議会に広めていくことが求められると思いました。

当事者の話しやすさもそうなのですから、やはりフリートークとか雑談の大切さも一つのテーマとして挙げられたと思います。どうしても会議には議題があって、その議題にのっとって話していくという形が前提のようになっているのですが、話やすさというところで雑談をうまく組み込むということもあるのではないかと。最近の出来事といったことから話してもらって、そこでウオーミングアップしてから、議題に入るというやり方もあるのではないかと思います。

私の経験になりますが、コロナ禍で大学でも授業や会議が一斉にオンラインになったときがありましたよね。そのとき、オンラインでは雑談がないということが大きな違いだと思いました。雑談でいろんな話題やアイデアが生まれてくるのですけれども、オンラインの場合は、そうしたものがぶちっと切れてしまうところがあって、そのときにやっぱり雑談の大切さを私も痛感しました。やはり会議を実りあるものにするためにも、フリートークとか雑談とかをうまく使っていくことも今後検討していただくといいのかなと思いました。

また、会議の運営について、令和6年度は二つのグループ、当事者参画グループと協議会の活性化グループと分かれて進めてきました。これは幾つかご意見があったように、二つのグループ分けの意図が分かりづらかった、一応、二つのグループに分けたけれども話し合ってもらった内容は同じだったというようなことがあるので、このグループの分け方や進め方については、今後検討していただくと思います。要するに、この全体の会議のメンバーをさらに話し

やすい形での小グループ化なのか、役割を持ってもらってのグループ分けなのかというところは、次期で検討していただくといいかなと思いました。

協議会では、地域移行・地域生活支援を一つの大きな地域課題としてテーマ設定して進めてきましたが、それについても幾つかご意見がございました。

一つは、セミナーで今年度は成功例だけでなく、地域移行の課題を意識して講師の先生をお願いしたという経緯がありますけれども、地域課題に取り組むというところでは何が課題なのかを見えるような形を設定するといいいのではないかというご意見だと思います。そういった問題意識は今年度もあったと思いますのでそれをさらに進めていただきたいと思います。

あと、地域移行した後の生活をどう支えるかということです。ペンギンチームだったと思うのですが、一人暮らしを始めたならカーテンがなくてカーテンをどうするかという話があったと思います。日常生活はそういうものなので、そういったことをどう支えていくのかということも大事なテーマではないか、というご意見だと思います。

そして、地域移行に関しても当事者の思いとか当事者の視点というのが大事だということをウサギさんチームからご発言くださったと思います。要するに、一人暮らしがいいのかグループホームがいいのか、おうちに引きこもっている方がいいのか・悪いのかといった、形がいい・悪いではなくて、そのときのご本人の気持ちとか満足感とか、そこが一番大事なのだという基本的なところですよ。だから、グループホームが楽しいというときもあれば、飽きちゃったというときもあるし、一人でおうちで好きなことをやっているときに楽しいと思えることもある、非常につまらないなと思うこともある。そういった当事者から聞かないと分からない視点というものをやっぱり大事にしていくということを確認できたと思います。

それから、この協議会の在り方についても幾つかご意見が挙げられたと思います。本協議会の設置要綱に書いてある協議事項は結構あるのですが、今の形でこれらの協議事項が全部できるとはとても思えないんですね。要は要綱と実態をどのようにすり合わせるかということについて、どこかで検討していただく必要があるのではないかと思います。協議会は結構自由度が高いので、いろんな課題を盛り込んでいるのですが、多分その中にはほかの会議体で取り組んでいる内容もあるのではないかと思います。その辺りの整理をしつつ、この協議会でやるべきことをもう少し精査していく。やるべきことなのにやれていないことがあればやっぱりきちんと取り組む必要があるし、ほかのところでこれはやっていることであればそこでやっていることを共有するというような整理をしていくといいのではないかと思います。

その中の一つとして、イヌネコさんチームから挙げられたご意見では、基幹相談支援センターの在り方をどこで協議するのかという課題があるなかで、この協議会がどのようにその役割を担うのかということも今後の検討事項ではないかということでした。今期から開催された担当者連絡会では、各自治体がどのような取組をしているかを、オンラインという比較的集まりやすい状況で共有できていました。この手法を参考にすいて基幹相談支援センターについてもテーマとして取り上げられないか、今後検討していただけるといいのではないかと思います。

地域移行に関する課題に戻りますが、やっぱり地域課題を取り上げるからですから、先ほど申し上げたことと併せてもう少し実態が見えるといいというご意見が挙がりました。セミナーも交流会もそうなのですから、今こうなっていますよという実態なりデータなりを参加者で共有して参加していただくことも大事ではないかと思って伺っておりました。

最後に楽しいこと。楽しいことをもっとやりたいというご意見ですね。例えばこの協議会の活動は、私たち関係者はもちろん参加者ですし、ほかの地域の協議会の方とか、関連の分野の方は協議会についてある程度知ってくださっていると思いますが、多くの人に知られていない。それは地域の協議会でも課題になっているのですよね。そして、やはり楽しいところには人が集まっていくという話もよく出てくるのですよね。では、協議会でできる楽しいこととはどういうことなのかをしっかりと考えていきたい。高橋委員にはいろいろアイデアを出していただ

いたり、楽しい雰囲気づくりに貢献してくださったと思います。それをさらに進めていけるといいと思います。東京都の協議会は自由な発想でいろいろできているのはすごいことだと思いますので、これからもいろんなことを実験して、やってみて良かったことはほかのところに広めていけるといいのなと思っていました。

皆さんから、今まとめさせていただいたようなご意見が上がったと思うのですけれども、何か足りないところはないでしょうか。大丈夫ですか。

では、以上です。

最後、すみません、総括を続けていいのですか。

○外川課長 ええ、続けていただいて。

○岩本会長 すみません。長々と私の話が續いて。早めに終わりますので。

第8期の最後というところで簡単に総括をさせていただきたいと思います。

今期のテーマと今年度の活動目標は共有していただいたところなのですが、実は当事者の参画の推進ということと、東京都内の各地域自立支援協議会の相互作用といいますか、情報共有や交流といったことは第6期からずっと取り組んできたことで、3期にわたって東京都の協議会活動の二つの柱だったと思います。第7期の総括のときにも、この当事者の参画と各地域協議会の情報共有・相互交流、そして地域課題としての地域移行・地域生活支援という三つの視点からところで私は総括していました。今年度のセミナーでの会長メッセージでも触れましたが、当事者の参画に関しては、東京都の協議会は工夫を重ねている一方で、地域の協議会の当事者参画状況は進んでいないんですね。当事者参画の推進について、東京都としてどんどん発信していきましようということで、この間取り組んできたわけなのですけれども、各地域でなかなかそれが形となっていないわけなのです。当事者参画の推進についてはやっぱりこれからも東京都が継続して粘り強く取り組み、発信していった各協議会に広めていくということが大きな役割だろうと思います。ぜひ継続して、そして発展させて、そして広めるということを進めていただきたいと思います。

それから、地域の協議会間の交流に関しては、非常に進んでいると思います。東京都内の地域協議会の交流促進について、私は当初から東京都ならではの形だと思っていたのです。やっぱり非常に人口規模が大きくて、各地域の協議会の設置が進み、それぞれが取り組みを進めているという状況では、横並び的に東京都が活動するというよりも、地域の協議会がもっと活動しやすいように、そしてそれぞれが新しい情報を得て、自分たちで使えるものを共有できるようにすることを目指して東京都としては取り組む必要があると考えてきました。例えば交流会にしても動向集にしてもそういった役割を担ってきたと思います。そして、今期は、担当者連絡会の新設ですね。これは本当に事務局のご尽力で実施できたことで、きっと大変だったと思うのですよね。オンライン開催でウェブで参加しやすいかもしれないけど、その準備はすごく大変だったと思うのですけれども、これが私は今後の大きなツールの一つになっていくのではないかと思います。どうしても交流会だと年に1回だけですし、参加できる方というのは限られてくると思いますし、紹介できる事例も一つ・二つぐらいになってしまいますので、それをほかのツールを使って同様の機会を増やしていくというところでは、ぜひ担当者連絡会はこれからも継続して発展させていただきたいと思っています。

動向集に関して、今回も調査項目について、委員の皆様から多くのご意見をいただきありがとうございます。それを取りまとめた事務局も本当に大変だったと思うのですけれども、東京都の自立支援協議全体像があのように見える資料は本当に貴重だと思います。先ほどの課長からのブロック会議のご報告でもほかの自治体では動向集のような資料づくりはあまりやっていないようだとのことでしたので、動向集は本当に貴重だと思います。

先日、第10期東京都の障害者政策推進協の総会があったのですけれども、その会議の場でも、ほかの自治体の状況や活動がなかなか見えないことが課題として挙げられていました。自

分たちの自治体のやっていることを見せるのはなかなか勇気が要ることかもしれないけれど、やっぱりお互いを知ることが大事ではないかというご意見があったのですね。私は、東京都の協議会が取り組んでいること知っていただきたいと思い、動向集や交流会・担当者連絡会での自治体の取組事例報告などを発信しているので、ぜひそれらを見ていただきたいとお願いしてきました。今後はこれらの活動や成果物を協議会の内部のものに留めず、いかに外につなげていくかが鍵になってくるかと思いました。と同時に、この協議会でできることは限りがあるので、東京都の中でほかにどのような地域課題について取り組んでいる活動があるのかということをお互いも知って、お互いを知りながら本協議会の役割をまた整理していく。先ほども言ったのですけれども、そういうことが大事になってくると思います。ですので、各地域の協議会の横のつながりをしっかり作りながらも、本協議会も東京都のほかの活動とどうやってつながっていくかということがテーマになってくるのではないかと思います。

あと、地域移行・地域生活支援における地域課題については先ほど皆様からもご意見をいただいたところです。大きなテーマである故にいろんな話ができるというご意見もある一方、もう少し絞り込んで課題を見えるようにしていく必要があるのではないかとご意見もございました。その両方を踏まえて次期につなげていただければと思いました。

すみません。少し私の話が長くなりました。今期をもって会長職を終えますので遺言というわけではございませんけれども、聞いていただいてありがとうございます。

では、以上で本日の全ての議題が終わりました。司会を事務局にお戻ししたいと思います。

(拍手)

○外川課長 それでは、本日はたくさんの貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

担当者連絡会等をいろいろ工夫してやる中で、地域の自立支援協議会の皆さんとも少しずつ顔見知りになったといいますかつながってきておりまして、幾つかの自治体では当事者参画について要綱を見直していきたいとか、オブザーバーとして当事者の方を参加させたいんだとか、いろいろ前向きなご意見をいただいている一方で、まだ交流会に一度も出てこないとか、あるいは担当者連絡会を知らないとか、もっと言ってしまえば都の協議会が何をやっているかわからないとか、そういうようなところもございまして、皆さんから貴重な意見をいただきながらこうした活動を当事者の皆さんも含めて知っていただくというようなところとか、もう一回原点に戻ってグルーピングだとか、そういうところも工夫しながらこの協議会の活動を継承していくといいますか、発展させていきたいというふうに思いました。事務局を代表して、本当にありがとうございました。

それでは、これをもちまして本日の第2回本会議を終了させていただきたいと思います。

ちょうどお時間もいい頃でご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

(午後4時27分 閉会)